

「沈黙は共犯だ！！」

“ガザへのジェノサイドを許さない！！”

即時停戦と封鎖解除を！！

「ガザ緊急アクションなごや」等の市民団体が国会議員にもガザの問題を国会で取り上げ根本的解決に向けて活動するよう要請する院内集会がありました(2024年2月26日)。

主催者の金城美幸さんから8項目の要請項目が説明されました。

- ① 10/7以降のイスラエルの軍事行動を“自衛権”の行使として支持した岸田首相、上川外務大臣の発言撤回を求めること。国連憲章51条の自衛権は”占領地内の非国家主体の軍事行動に対する自衛権は成り立たない“のですからイスラエルの自衛権は成り立たないし、よしんば自衛権が認められたとしてもイスラエルの行動は自衛の範囲を超えている。
- ② イスラエルに対しジェノサイド防止を命じた国際司法裁判所(ICJ)の仮保全措置命令(2024年1月)を遵守し、ラファへの攻撃をやめるようイスラエルへ求めること。
- ③ アンルア(UNRWA国連パレスチナ難民救済事業機関)への拠出金停止はジェノサイドへの加担です。集団的懲罰です。直ちに拠出金を再開すること。上川外務大臣はICJの命令を誠意を持って実行すると言っていて、拠出金を停止するのはオカシイ。UNRWAは人道支援の柱です。
- ④ ガザの封鎖は集団的懲罰であり、国際法違反です。イスラエルやその支持国に封鎖の解除を求めること。
- ⑤ 米国等のイスラエルへの武器供与に反対し停止を求めること。
- ⑥ ジェノサイド等の国際犯罪を促進するリスクのあるイスラエルとの協定や覚書の破棄を含めて見直しを検討すること。

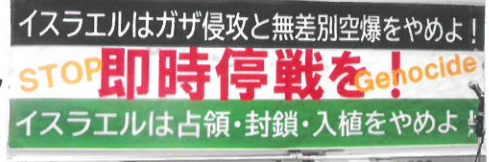
*12の協定:「日・イスラエル投資協定」「イスラエルとのサイバーセキュリティ分野における協力に関する覚書」「日本防衛省とイスラエル国防省との間の防衛交流に関する覚書」「ありうべき日・イスラエル経済連携協定(EPA)に関する共同研究」など...

- ⑦ イスラエルに対する武器禁輸の徹底。又イスラエル製の武器や軍事技術の輸入をしないこと。自衛隊とイスラエル軍の間での武器・軍事技術に関する共同研究を行わないこと。

*日本企業フアナックは砲弾などを作るロボットをイスラエルに輸出している。

*防衛省はイスラエル最大の軍事企業エルビット・システムから無人攻撃機を輸入しようとしている。

*伊藤忠はICJの命令 ならびに「ICJの命令は誠意を持って履行されなければな



らない」という上川外務大臣の談話を理由に、エルピットとの協力覚書を終了することを決定したのに…

- ⑧ガザの状況、ヨルダン川西岸・ゴラン高原へのイスラエルの入植は国際法違反。入植関連ビジネスを締結することのないよう企業に周知徹底すること。

この要請項目の発表を受けて市民団体や駐日パレスチナの人々からも発言がありました。UNRWAへの拠出金停止については多くの人々から非難の声が…

国際研究者高橋氏も「10/7 ハマスの攻撃のときアンルアの職員も一緒にいた」というイスラエルからの発言を受けて米国・イギリス・日本等 15 カ国が拠出を停止したがこれはおかしいと。UNRWAはガザに職員 13000 人もいて教育・ごみ収集などの民生・福祉事業や支援活動をしている国際機関。仮に数名参加者がいた(今国連が真偽を調査中)としてもUNRWA全体への拠出を停止する理由にならないと批判しました。

パレスチナの人からは「ガザでは家族も、コミュニティも壊されている。この状況から眼を背け沈黙し何も行動しないことはイスラエルとの共犯だ」「ガザの人々が求めている水・食料・医薬品等を現地に送ってほしい。平和を求めるパレスチナ人の声を世界にひろめ、平和を要求してほしい」「行動するか、しないかどちらを選ぶのか?平和を求める国なら今こそ行動を起こすべきです」とガザと共に闘ってほしいとの熱い思いが訴えられました。

又、「ガザの子ども達は自分の母親や父親そして兄弟姉妹の体がバラバラになっている現実を見ている。母が戦車でひき殺されている状況を見ている。死が次々と押し寄せている。しかし私たちガザのパレスチナ人は自分に誇りを持っている。自信を持っている。」「必ず自分の土地に戻る」と厳しい過酷な状況の中から希望を見出そうとしている強い意志を語りました。

集会に参加した阿部ともこ議員からは国会の状況が語られました。



「国会は何をしてるんだとお叱りを受けてますが、遅すぎるとはいえグループをつくって今国際法などの勉強をしています」。

「国会議員の多くは「ハマスはテロ」と言う。しかし国際法を知らないからなのです。国連憲章 51 条の自衛権の要件から判断し「ハマスはテロではない」という国際法にのっとり議論してイスラエルのジェノサイドに対応しなければいけないという思いです」

「UNRWAへの拠出金停止についても国会にアンルアの清田さんを招き現状をお聞きしました。教育・医療・ごみ収集などあらゆることを担っているUNRWAの本当の姿を知り情報を共有しなければとの思いです。WFPに拠出すればよいという問題ではないのです。」

そして「今年 3 月国連安保理の議長国が日本です。停戦へ向けて国会内世論を作っていきたい。そして国会外の市民の運動をもっと起こしていきたい」と。

集会の最後に金城さんは基本的視点を訴えました。

○ジェノサイドが目の前でに行われている。UNRWAへの拠出金がストップされてる。ラファへの攻撃が…“私達は3万人もの人々の命を救うことに失敗した”という地平からガザにかかわっていきたい。

○“ガザでのジェノサイド・アパルトヘイト・集団的懲罰”ということに“加担する”ようなシステムに入ってしまった。経済構造になってしまっている現状への批判と行動の必要性。

○パレスチナは遠い地域の話といった“無知の暴力”をきちんと認識・批判していきましょう。

○停戦・人道援助へ全力を尽くす

○UNRWAは1948年イスラエル建国にともない生じさせたパレスチナ難民への国連の責任で措置された難民救済事業機関であり、拠出金を出さないで全世界の国々はどのようにして責任を取るのか!国連の他の機関で代替支援すればという問題ではないのです。

○パレスチナの人々には自分たちの土地・家へもどる「帰還権」があるのです。UNRWAをなくしてしまうことはパレスチナ人の帰還権をもなくすことになるのです。

と私たちの行動指針が示唆されました。

パレスチナの解放!!パレスチナ人の帰還権を実現させましょう!!

新宿駅南口アクション

「ラファへの攻撃を許すな!!」



140万人もの避難の人々が集まっているラファをイスラエルは攻撃するという。



新宿南口ではパレスチナ人をはじめ多くの市民が集まり“イスラエルのガザでのジェノサイド・ラファへの攻撃”に抗議のデモンストレーションを行いました。

(2024年3/2)

「今起こっていることは緊急事態…行動を起こしましょう」「あなたの沈黙はイスラエルに力をつけさせる」

「支援の声が必要です。声を出す勇気を持って支援の声を広げてください」とパレスチナ人から切実な思いが訴えられ、人々の熱い思いがこめられたコールが続きました。

「フリーフリーパレスチナ」「ストップストップジェノサイド」「殺すな」「こどもも大人も殺すな」「ラファに手を出すな」「即停戦」「水・食料・薬を」「虐殺やめろ」「平和の前にパレスチナ解放」「川から海まで解放」「経済制裁、政府にお願い、今すぐお願い」「UNRWA再開」…子どもも大人も殺され続け(3万人以上)、食料もなく飢餓で亡くなる子供たちが次々と…………… まだ殺したりないのか!!

「民主主義と自治そして平和主義」藤代政夫

047-445-9144

*活動報告HPに掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます